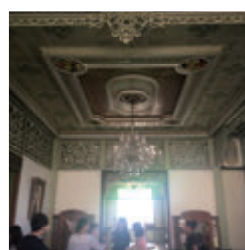
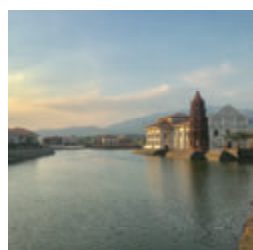
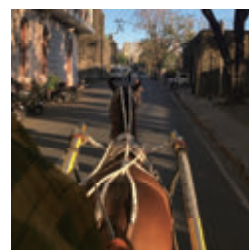
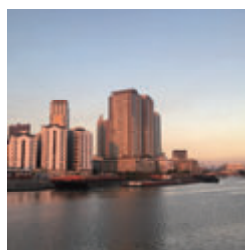
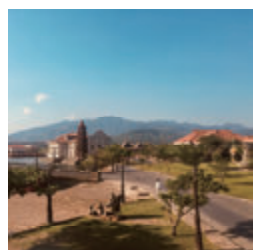
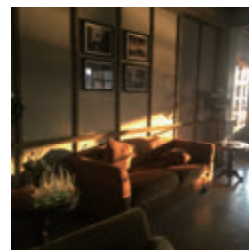


# 2018 年度 明治大学法学部

## デ・ラ・サール大学春期法学研修報告書



発行：明治大学法学部

<http://www.meiji.ac.jp/hogaku/dlsu/>

## 目次

1. 教員あいさつ . . . . . P. 2
2. イントロダクション . . . . . P. 3
3. スケジュール . . . . . P. 4
4. フィリピンでの生活 . . . . . P. 5
5. 授業 . . . . . P. 6
6. ユニカセレストラン . . . . . P. 7
7. フィールドトリップ . . . . . P. 8
8. ラス・カサス . . . . . P. 9
9. Message from DLSU Students . . P. 10～11
10. 参加者の感想 . . . . . P. 12～13
11. 2018年度研修概要 . . . . . P. 14



# 1. 教員あいさつ

世界へ<sup>はばた</sup>羽搏こう

法学部長 村上 一博

明治大学法学部は、フィリピンのデ・ラ・サール大学法学部と提携して、2014年3月からデ・ラ・サール大学春期法学研修を実施しています。

この研修では、デ・ラ・サール大学法学部の教員や弁護士から直接フィリピンの法律や司法制度を英語で学びます。「英語で法律を学ぶ」と聞くと、とてもハードルが高く思えるかもしれませんが、こちらの研修は1年生からの参加が可能です。渡航前の事前学習はもちろんのこと、研修先では現地学生のサポートもありますので、海外経験がない学生でも挑戦できる環境が十分に整っています。また、研修の一環として実施される国会議事堂、裁判所、法律事務所などへのフィールドトリップでは、フィリピンの政治と法の現場を身近に実感することができ、さらに、現地の学生・教員との各種の文化プログラムは、フィリピンの歴史と文化と社会をより深く知る機会になると確信しています。

プログラムを終える頃にはきっと、海外でやり抜く力と自信がついていることを実感できるでしょう。ぜひ、日本を飛び出して世界に羽搏きましょう。

## Learn Beyond Borders

Program Director Teruhisa Komuro

Meiji University School of Law and De La Salle University College of Law's relationship is still in its infancy, but is very strong. We are sharing the value of the fundamental human rights in legal education, and we are both developing human resources with global perspectives. In this context we have launched short-term study abroad courses in Manila (since 2014) and in Tokyo (since 2015) for law students to understand and respect law and culture of the Philippines and Japan, and to be able to improve the friendly relationship between the two countries.

What we expect from our young law students most is to 'learn beyond borders'. In order to solve the problems and improve each society, the knowledge and experiences of the other country will certainly help. Of course to feel the culture and the hearts of the people will contribute to further mutual understanding. We hope those who participated in the course will support the societies and enhance the relationship between Japan and the Philippines.

## 2. イントロダクション

私たちは、2019年2月24日から3月10日までの約2週間、2018年度デ・ラ・サール大学春期法学研修に参加しました。本研修は、ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジ夏期法学研修およびハワイ大学春期法学研修と同様、「英語で法律を学ぶプログラム」として、2013年度から実施されています。

研修は全て英語で行われますが、授業だけでなく、食事の際の注文や、現地の学生と食事をするとき、遊びに行く際などあらゆる場面で英語を話す機会があるので、日常会話を鍛えることができます。研修期間が短期であり、現地の方のサポートもあるため、海外留学に不安を持っている人や外国へ初めて行く人でも気軽に参加できます。マニラとの時差は1時間で、成田空港からおよそ4時間で行くことができ、とても行きやすく、また気候が温暖なので、過ごしやすいです。

デ・ラ・サール大学は、1911年に設立された、とても歴史ある大学です。キャンパスはマニラ市に位置し、全部で8つの学部・大学院があります。フィリピン初のキリスト教を信念とするキリスト系の大学でもあります。フィリピンの中でも裕福な大学で、敷地面積がとても広く、設備が充実しています。また、学校の入り口や学生が住む寮には必ず警備員が立っていて、防犯対策の為にIDカードを使った厳重なチェックが行われています。

研修では、現地の大学の先生から英語でフィリピンの法律を学びます。英語で違う国の法律を学ぶため、一見難しいように聞こえますが、難しい点に関しては時間をかけて説明して下さるため、フィリピン法を十分理解できるようになっています。また、フィリピンの法律と日本の法律を比較しながら授業は進むため、日本の法律への理解も深めることができます。

本研修は授業だけではありません。フィールドトリップやエクスカージョンなど、多彩なプログラムが設けられています。本年度は大統領が住む宮殿や国会議事堂、週末にはリゾート地に行き、海で遊んだりと楽しい思い出や貴重な経験をすることができました。現地でのサポートも大変充実しています。デ・ラ・サール大学の学生が生活面、勉強面でサポートしてくれ、移動の際は大学の先生や学生が同行してくれるので、治安面での不安も全くありません。

生活面や文化の違いなど日本と全く違う環境で2週間過ごすことになるので、最初は不安な気持ちもあるとは思いますが、法学研修にチャレンジしてやりきることで、グローバル化の中で生き抜く実力をつけるきっかけが得られると思うので、自分の可能性を広げたい人、留学を一度してみたい人にはぜひ参加していただきたいです。



### 3. スケジュール

平日は、ほぼ毎日、法律の授業があり、家族法や労働法、租税法、知的財産法、国際法などを学びました。放課後は、現地の学生たちが、私たちの要望に合わせてショッピングモールや飲食店に連れて行ってくれました。

フィールドトリップでは、マラカニアン宮殿や議会上院、法律事務所など、観光旅行ではなかなか行けない場所に足を運ぶことができました。移動は車が多かったですが、電車やジープニーにも乗りました。

自由時間には、最終プレゼンにむけてのリサーチや、寮のプールで泳いだり、部屋で休んだりとリフレッシュすることもできました。また、現地の学生と連絡をとって、ご飯を食べに行ったり、公園に出かけたりする日もありました。

そして、最終プレゼンの翌日から1泊2日でラス・カサスというリゾートに行きました。みんなで一緒に海やプールで泳いだり、アスレチックで遊んだりしました。

勉強だけではなく、遊びも充実した2週間でした。

日	月	火	水	木	金	土
2月24日	2月25日	2月26日	2月27日	2月28日	3月1日	3月2日
	Free Time	Malacañang Palace Visit	Lecture	Lecture	Free Time	Free Time
Arrival	Lecture	Campus Tour	Lecture	Lecture	Class Sit-in	Intramurous Visit
		Senate Visit		Law Office Visit		Dinner
		Dinner				
3月3日	3月4日	3月5日	3月6日	3月7日	3月8日	3月9日
Free Day	Lecture	Lecture	Free Time	Presentation	Las Casas Filipinas de Acuzar Excursion	
	Lecture	Lecture	Lecture			
3月10日						
Free Time						
Departure						



## 4. フィリピンでの生活

- 2週間、学校のすぐ隣の寮に泊まりました。キッチン付きの広い部屋でした。朝ごはんは前日にスーパーなどで買ったものを食べるか、近くのレストランや学食で食べました。



- 学校の敷地内には至る所に猫がいます。



- お昼ご飯、夕ご飯は学校の近くのレストランで食べました。日本料理店も近くにありました。チキンを食べることが多かったです。ゴンチャなどタピオカ屋さんもありました。



## 5. 授業

2週間の法学研修のメインは「異国の地（フィリピン）で法律を学ぶこと」です。この研修での授業は、実際に行われているデ・ラ・サール大学の講義に出席するという形式ではありません。現地の学生が受けている講義に出席する機会もありますが、基本はデ・ラ・サール大学の教師陣が、私たち明治大学の学生でもわかりやすいように、特別に用意して下さった授業を受けます。授業



は全て英語で行われます。英語を使って新しい知識を学んだり、授業では、先生から自分の考えを求められることも多かったので最初は大変緊張しましたし大変でしたが、授業を受けていくにつれ慣れてきますし、少人数での授業であるため、自由に質問をすることができたり、分からないことは先生がその都度詳しく教えてくださったりと英語力に自信がない人でも乗り切ることができる環境が整っています。

本年度の研修で受けた授業は、フィリピン法概説、憲法、租税法、情報法、労働法、子供の権利、ビジネス法、刑法、家族法、国際法、環境法など、日本で学んできた法律だけではなく、幅広い分野を2週間の中で学びました。

授業は、その日のスケジュールとの兼ね合いで長さが変わりましたが、通常1コマ3時間、午前と午後に1コマずつ行われました。休憩を含めているといえ3時間なので大変ではありましたが、英語を聞き取ること、フィリピンの法律を理解することに必死で頭をフル稼働させていたので、それほど時間は長くは感じませんでした。

また、本研修は授業を受けるだけではなく、自分で調べ学習をする時間も多く設けられています。研修の最後に現地の学生や先生に調べた結果を発表する時間があるからです。

研修では、参加者の中でチームに分かれてチームごとに1つテーマを決めて調べ、発表するという“Legal Research”が2週間の中で課されます。

本年度は2チームに分かれ、それぞれ女性の労働状況、労働法、家族法について調べ、日本の法律とフィリピンの法律を比較しながら発表しました。

調査段階では、自分たちで調べるだけでなく、現地の学生も調べるのを手伝ってくれたり、発表前にアドバイスをくれたりと常にサポートしてくれたため、よりよい発表ができましたし、法律の知識も深めることができ、充実した時間を過ごすことができました。



## 6. ユニカセレストラン

ユニカセレストランは明治大学商学部出身の中村八千代さんが2008年にフィリピンのマニラにオープンしたレストラン。日本人にあった優しい味付けでフィリピンに住む日本人行きつけのレストランとなっています。

ユニカセレストランの最大の特徴は、恵まれない環境に育った子供たちを雇い社会復帰をサポートするレストランであること。支援慣れしてしまった子供たちに働く大切さを教えて自立した生活を送ることが出来るような取り組みを行っています。

ユニカセとは“uniquease”と書きます。これは unique kasi(ユニーク カセ)という言葉の造語です。Kasi はタガログ語(フィリピンの現地の言葉)で Because という意味です。Unique kasi を直訳すると「なぜなら僕たちはユニークな存在だから…」となります。どんなに厳しい環境に育とうとも、私たち一人一人にはその人にしかない個性や強み、存在する大きな価値を持っている、という強いメッセージが込められています。



私たちは、マニラ紫紺会の方と合流し実際にユニカセレストランで食事をしました。また、中村さんからフィリピン貧困層の生活やユニカセ誕生の経緯も伺いました。日本では考えられない話の数々に我々も衝撃を受けました。日本の豊かさを改めて感じる良い機会となりました。

←中村さん、マニラ紫紺会の方と一緒に

ユニカセレストランでは、中村さんが様々な団体から委託した商品の販売も行っています。かわいらしい雑貨の数々に我々もつい手が伸びてしまいました。





## 7. フィールドトリップ

週末はフィールドトリップへ！マニラの中心部から少し離れ、イントラムロス Intramuros というところに行きました。イントラムロスとはスペイン語で「壁の内側」という意味。16世紀にスペイン人たちによって建てられたマニラ最古の地区です。ここには世界遺産に登録されているサン・アウグスティン教会や、フィリピンの英雄ホセ・リサールをたたえたりサールパークなどがあります。異国の雰囲気漂うイントラムロスに我々もタイムスリップしたような気分になりました。

### フィリピン国立博物館

フィリピンの様々な絵画や、彫刻、伝統的な衣装などが展示されています。1階から3階まであり、大変見ごたえのある博物館でした。

館内は撮影自由なので写真も撮り放題。お気に入りの作品の前でパシャリ。



イントラムロス内の移動には馬車を使いました！日本語が話せるガイドさん付きです。フィリピンの歴史を感じながらゆったりした時間を過ごすことが出来ました。

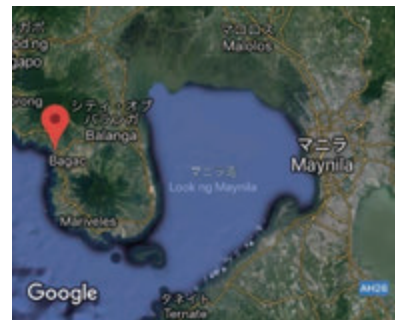
### サンチャゴ要塞

16世紀から17世紀にかけて建てられた要塞。この写真の後ろには夕日に照らされた美しい空が広がっていますが、ここにあるのは日本とフィリピンの悲しい歴史。サンチャゴ要塞は、第二次世界大戦中に日本軍の軍事拠点として利用され、ここで多くのフィリピン人が日本人の手によって殺害されました。フィリピンに行ったら一度は訪れて頂きたい場所です。



## 8. ラス・カサス

最後の週末、私たちはバタアン州にある Las Casas に連れて行ってもらいました。首都のマニラから車でおよそ3時間。バガック町という静かな農村にあるリゾート施設です。



後ろに見えるのはスペイン統治時代の建物を移築したのもです。鮮やかな建物が立ち並んでおり、どこを取っても絵になります。

ラス・カサスの最大の魅力は、なんといってもビーチ！“これぞフィリピン”といった海が広がっています。海上アスレチックやカヌーなどのアクティビティも充実。朝から晩までフィリピンの海を思う存分楽しむことが出来ました！



## 9. Message from DLSL Students

### **Zafariah Lloren Oreio**

To our dearest Meiji University law students, it has been always a rewarding experience to meet and assist our yearly DLSU x MEIJI Exchange Program students.

To those asking, why should we join this program? It's simple because it's a FUN experience that you would remember in your lifetime. It is not only about learning about the Philippine laws and sharing your Japanese laws but also bridging a friendly relation between Philippines and Japan. It's also a fun way to enjoy the summer as Philippines is known for its tropical weather.

What are you hesitating for? We in DLSU Law hopes to meet you soon!

明治大学法学部のみなさん、毎年デ・ラ・サール大学と明治大学の交換留学プログラムの学生をサポートするのは、とてもやりがいのある経験です。

なぜこのプログラムに参加するのか？その答えはとてもシンプルで、生涯忘れない楽しい経験になるからです。フィリピンの法律を学んで、日本の法律を共有するだけではなく、フィリピンと日本との友好的な関係も築くこともできます。フィリピンは、熱帯の気候で知られていて、夏を楽しむこともできます。

何をためらっているのですか？私たち、デ・ラ・サール大学法学部生は、早くみなさんに会いたいです！

### **Gerard Siasat**

As Japan marked the beginning of a new era, an Era of Peace (Reiwa), Japan becomes a more global nation. You should become part of it!

The relationship of Japan and Philippines may not have begun on a positively, however, the new generation from both countries most certainly have already begun forming a new and healthy relationship which fosters an exchange of culture, technology, and talent.

I invite all the students from Meiji University, especially YOU who are reading this. Make your vacation very fruitful and spend it in the Philippines, in De La Salle University.

日本は、平和の時代「令和」という新元号が始まり、よりグローバルな国になっていくでしょう。あなたもその一員になりましょう！

日本とフィリピンの関係はポジティブな形で始まったわけではありませんが、私たちの新しい世代は文化、技術そして人材の交流を深め、新しい良い関係をすでに築いています。

明治大学の全ての学生におすすめます、特にこれを読んでいる“あなた”にです。春休みを充実させるために、フィリピンのデ・ラ・サール大学で過ごしましょう。

## Ezra Solano

DLSU College of Law's International Law Society (ILS) welcomes you all to our student exchange program here in the Philippines! Last March 2019 our organization warmly welcomed students from your prestigious university in this program. These four students had been given an introduction on our laws here in the Philippines and have learned so much from their two weeks stay here in our country. They also had been given a tour of the culture and history of the Philippines as well as having trips around different cities to have a taste on the authentic flavors of the country. These students not only acquired knowledge and skills on international law, but they also had fun in doing so.

We urge you all to join this program in helping you in your study of law. A program that will make you closer to another set of culture, tradition, and of course, the legal profession. It will give you a new point of view on what the law is, how it is made, implemented, and enforced here in the Philippines. And along the way, meet new friends that will carry on fun memories in the years to come. We of the ILS enjoy doing this collaboration with Meiji University and hope to continue this journey with all of you. See you all here in the Philippines!

デ・ラ・サール大学法学部インターナショナル・ロー・ソサイエティ (ILS) はフィリピンへの留学生を歓迎します！2019年3月に行われたプログラムでも、私たちの団体は明治大学からの学生を温かく歓迎しました。その4人の明治大学からの留学生はフィリピン法の入門の授業を受け、2週間フィリピンに滞在して、たくさんのことを学びました。また異国情緒のある場所に出かけ、フィリピンの文化や歴史についてのツアーに参加しました。4人は国際法の知識やスキルを楽しみながら習得していました。

これから参加しようと考えている方には、この研修は今後の法律の勉強に役立つものであるということをお伝えたいです。この研修は、フィリピンの文化や伝統、そしてもちろん法律に親しみを持つものとなっています。法とは何か、どのように作られ、施行され、そしてここフィリピンでどのように遵守されているかということについて新しい観点を得ることができます。そして、楽しい思い出を共にする新しい友達が待っています。明治大学と協力し、参加者みなさんとの旅を続けるのを楽しみにしています。フィリピンで会いましょう！



(左から Zaf、Gerard、Ezra)



## 10. 参加者の感想

福田 さち (Fukuda Sachi)

“マガンダン・ハポン” これはタガログ語で「こんにちは」という意味です。(タガログ語はフィリピンの現地の言葉です。) 昼食後から夕方ごろまで使われます。“マガンダ”とは「美しい」という意味です。“ハポン”には「午後」という意味と、もう一つ、「日本」という意味があります。つまり、“マガンダン・ハポン”には「美しき日本」という意味もあるのです。

フィリピンと日本の交流は古くから続いています。第二次世界大戦中には日本人がフィリピン人に対して非人道的な行いをしていました。しかし、日本とフィリピンは現在良好な関係を築いています。フィリピン人が“マガンダン・ハポン”という挨拶を交わし続ける限り、私たちの良好な関係は続いていくと思います。私たちの関係が「美しき日本」というイメージのまま続くことを願っています。

“Magandang hapon.” This greeting means “Hello” in Tagalog (Tagalog is a dialect used in the Philippines). We can use this greeting only in the afternoon. "Maganda" means beautiful. "Hapon" means afternoon, but it has one more meaning, it means Japan. In other words, "Magandang Hapon" could mean “Beautiful Japan.”

The good relationship between the Philippines and Japan is kept for a long time. Japanese people did acts of cruelty to many Filipinos during the Second World War, however, we Japanese are still able to build good relationship with the Philippines now. I would like to think that as long as the Filipinos still use the greetings, “Magandang Hapon”, our good relationship would remain. I wish this relationship will make a good image that Japan is a beautiful country.

横野 真理菜 (Marina Yokono)

フィリピンでの2週間は充実していて、本当にあつという間でした。出発前は不安ばかりでしたが、帰る日には「まだここにいたい」と思っていました。この研修では、フィリピンの法律を学べるだけでなく、現地の友達と一緒に思いっきりフィリピンを楽しむことができます。また、フィリピンの文化を理解する上で、日本の文化の素晴らしさも同時に感じました。

もし迷っているならぜひ参加してください！後悔しません！

My 2 weeks stay in the Philippines was very fulfilling but it felt like it went by so fast. Before leaving Japan, I felt uneasy with the fact of living and studying in the Philippines. However, the day I had to go back to Japan, I thought "I want to stay here!" In this program, you will not only study the Philippine laws but also enjoy and experience the Philippine life to the fullest with local students. Moreover, I felt how wonderful both the Japanese and the Philippine cultures at the same time.

If you can't decide yet, I say you should go there! You will not regret it!

### 岡 遥太郎 (Yotaro Oka)

以前から大学在学中に留学をし、そして自分の可能性を伸ばしたいと思っていたため、今回フィリピンでの法学研修に参加しました。英語で法律を学ぶことは決して簡単なことではありませんでしたが、現地の学生のサポートのおかげで困ることなく充実した2週間を過ごすことができました。留学生活を支えてくださった全ての方に感謝したいと思います。ありがとうございました。

I really wanted to study abroad just for once while I'm in the university to expand my potential as a student, so I participated in the exchange law program.

Learning law in English was never easy for me, but thanks to the support of the local students, I was able to spend two full weeks without worries. I would like to thank all the people who supported my study abroad life. Thank you very much.

### 瀧澤 ひろか (Hiroka Takizawa)

なんといってもフィリピン料理がとても美味しかったです。

一番印象に残っていることは、終盤のプレゼンが終わった後にラス・カサスに行ったことです。そこには歴史的建造物が集まっているところがあり、まるでタイムスリップしたかのような気分を味わえました。そこのすぐ近くに綺麗なビーチもあり、泳いだり船に乗ったりと満喫することができました。

授業が1コマ3時間だったので最初は不安でしたが、先生方が興味深い授業をして下さったので、3時間はあっという間でした。また、外国の法律を学ぶことによって法律をより柔軟な視点で学ぶ力も身に付いたのではないかなと思います。

Special mention to the Filipino foods, it was all very delicious.

The most unforgettable experience was going to Las Casas after the presentation. There are historical buildings and I felt I slip into the past. Near the old buildings is a beautiful beach wherein we enjoyed swimming and island hopping.

Another experience I would like to share is that some of our classes is for 3 hours, so I thought it's too long for me because I usually take classes less than 2 hours. But all classes were very interesting and 3 hours is not too long. I realized that I have the ability to learn laws from a more flexible point of view by learning Foreign laws.



# 11. 2018年度研修概要

◎期間：2019年2月24日（日）～2019年3月10日（日） 14泊15日

◎参加人数：4人

◎研修校：De La Salle University College of Law（フィリピン マニラ市）

◎滞在先：W.H. Taft Residence(1人部屋、食事なし)

◎研修費用：約28万円（別途、法学部より助成金7万円を支給）

◎成績評価・単位認定：法学部が行う「事前・事後学習」での参加・理解度、および現地での授業参加度・最終プレゼンテーションで総合的に判断し、翌年度の春学期集中・法学部科目として成績評価を行い、2単位付与。

◎現地の生活に必要なもの&あると便利なもの ぜひ参考にしてください！

## ★持ち物

〈手荷物〉

パスポート、航空券、海外旅行保険証、研修校の資料、携帯電話、パソコン、電子辞書  
筆記用具、常備薬、現金（日本円で3～4万円が十分、現地で両替可）、マスク、化粧品

〈スーツケース〉

衣類、洗面用具、パスポートのコピー、タオル、サンダル、水着、ウエットティッシュ、ちよつとしたお出かけの時に使うショルダーバック、トイレットペーパー、雨具 など

## ★衣類

屋外は30度ほどあり、とても暑いですが、建物の中はかなり冷房が効いていて寒かったです。薄いカーディガンやパーカーをリュックに入れておくことをお勧めします。授業時はノースリーブやショートパンツ、サンダルは避けましょう。また、フィールドトリップでは、フォーマルな服装をすることがあります。白いワイシャツ・スラックス又はスカート、黒の革靴が必要です。

## ★食べ物

現地の寮の近くのスーパーに買い出しに行くことができますが、日本からカップラーメンやインスタントの味噌汁、好きなお菓子などを持参すると便利でしょう。日本の味が恋しくなった時に食べたり、現地の学生にお土産として渡したりしました。フィリピンでは日本のチョコレートが人気で、喜ばれました。

## ★生活用品

こちらもスーパーで調達できますが、シャンプーなどは普段使っているものを持っていくといいと思います。荷物に余裕があったら、トイレットペーパーも持っていくといいでしょう。

## ★ネット環境

大学内ではWi-Fiを利用できます。私たちが滞在したレジデンスにも部屋ごとにWi-fiが完備されていて不自由はありませんでした。それ以外でネット環境が必要だと思う方は、ポケットWi-fiやSIMを持っていくといいと思います。私たちは4人中2人が持参していました。

## ★パソコン

授業で持ってくるように指示されることはありませんでしたが、最終プレゼン用のスライド作成や調べものをする際に多く使用しました。持参することをお勧めします。今年度は全員持参しました。



Great memories in the Philippines

